週刊 観光経済新聞
宿泊・旅行業・運輸・自治体（観光全般）
第2部

ツーリズムEXPOジャパン2023大阪・関西 特集

未来に出会える旅の祭典

主催3団体 特別鼎談

日本政府観光局
（JNTO）
理事長 蒲生 篤実氏

日本旅行業協会
（JATA）
会長 髙橋 広行氏

日本観光振興協会
（日観振）
理事長 最明 仁氏

日本観光振興協会（日観振）と日本旅行業協会（JATA）、日本政府観光局（JNTO）が主催する世界最大級の旅の祭典、「ツーリズムEXPOジャパン2023大阪・関西」が10月26～29日の4日間、大阪市のインテックス大阪を会場に開催される。併せて、JNTO主催の訪日インバウンド商談会「VISIT JAPAN トラベル&MICEマート2023」（VJTM）も同会場で26～28日に実施される。今回は、25年の「大阪・関西万博」で注目を集める大阪・関西における旅行需要復活の起爆剤となるイベントとして業界関係者の注目を集めている。そこで開催を前に日観振理事長の蒲生篤実氏にその概要や目的などについて語っていただいた（東京・JATA本部で）。

旅行の現状

――（司会＝編集部・板津昌義）観光を取り巻く現在の環境や旅行の動向についてどう捉えているか。

最明 6月に理事長に就任した後、各支部を回り、各地域とも多くのお客さまでにぎわっている状況を見てきて安心している。今、宿泊施設や交通機関といった観光関連事業者の人手不足が深刻なようだ。国の来年度予算の審議が始まり、補正予算もあると聞いているが、観光庁をはじめ各観光関係者がコロナ禍で傷付いた観光のイメージをどう上げていくのかということに注力していきたい。

今年の夏休みの状況を会員各企業に聞いたが、インバウンドと国内旅行はコロナ前の状況にほぼ近くなってきているという。一方でアウトバウンドのお客さまがまだ戻ってきておらず、実績は非常に振るわない。特に国際線の戻りが遅い。これからアウトバウンドのお客さまがどのぐらい乗るかによって、今後、その路線が維持されるかどうか決まるという話も聞いているので、インとアウトのバランスの良い取り組みをわれわれもサポートしていきたい。

髙橋 観光庁が発表した7月の数値での主要旅行会社の取り扱いは、おおむねコロナ前の7割まで回復している。訪日インバウンドは8割以上回復しており、国内に至っては19年にまで戻ったという旅行会社もある。解禁された中国の訪日団体旅行の動向が注目されるものの、訪日インバウンドと国内については、コロナ前に到達するのはもう時間の問題だ。国内旅行は全国旅行支援が終了したとしても、今の勢いはおそらく持続する。

しかし、アウトバウンドはまだコロナ前の5割程度だ。これをどう回復させるかが今、旅行業界の喫緊にして最大の課題だ。訪日とは逆に円安が旅行者に対して大きくネガティブに働いている。航空運賃やホテル代など旅行費用全般が高騰している。日本発の国際線は、盛況な訪日客が多くの席を使用しアウトバウンドに席が回らないという実態もあり、戻りが遅い。

――訪日インバウンドの現状について蒲生理事長の見方は。

蒲生 昨年10月11日の水際対策緩和の後は堅調に戻ってきている。想定以上の地域もあり、堅調に回復しているという評価は皆さんと一緒だ。ただ、一方通行であり、日本からのお客さまが戻っていないのは少し心配で、その点はわれわれも問題意識を共有している。そういった中で地方の空港で航空便が戻ってきているのは一つ明るい話題だ。

一方で、中国の団体のお客さまはせっかく解禁という形になったにもかかわらず、諸事情から日本への旅行についてネガティブな反応をされる方々もいるのが気になる。ただ、現状においても、インバウンド全体で19年に迫るような勢いがある。中国のお客さまが戻ってきたときに受け入れる体制が整っている必要がある。いずれにしても、JNTOとしてやれることはしっかりやるという心構えで臨みたい。

開催の目的

――ツーリズムEXPOジャパン大阪・関西をどのようなイベントにしていくのか。

髙橋 関西では19年以来2度目の開催になる。ツーリズムEXPOは過去9回開催しているが、今回、大阪で開催する意義は大きく二つある。一つは、今回のテーマを「未来に出会える旅の祭典」としている通り、コロナ禍を経験しポストコロナ、SDGsといった新しい時代にふさわしい商品、サービス、あるいは情報、イノベーションを発信していく。もう一つは、25年に関西で大阪・関西万博が開かれるので、それにつなぐイベントとして位置付けている。関西の皆さまはよく「万博へ」とおっしゃるが、規模が違うにしても「ツーリズムEXPOからワールドEXPOにつなぐ」という流れを関西から作っていきたい。動員目標数は19年開催時と同様に15万人を予定している。最低、この数字を確保して、できればそれを超えたい。同時にVJTMを開催する。今回、ツーリズムEXPOとVJTMを合わせて、世界80カ国以上の国や地域からの参加が見込まれる。

ツーリズムEXPOではいつも「観光大臣会合」を開催しているが、今年は「日本ASEAN友好協力50周年」なので、ASEAN諸国の観光大臣を中心に15カ国ぐらいで開催する予定だ。もう一つのメイン行事である「ウェルカムレセプション」では、大阪・関西らしい演目や食を用意している。最大限の趣向を凝らしたおもてなしをしていきたい。

テーマ別シンポジウムの今回の特徴は大きく三つ。一つは、海外旅行促進のためのシンポジウムを設定する。同時に開催期間4日間のうち後半の2日間はBtoCなので、来場のお客さまにも海外旅行の魅力をアピールしていく。二つ目は、大阪・関西万博関連のシンポジウム。三つ目は、9月に北海道で「アドベンチャートラベル・ワールドサミット北海道・日本」が開催されたので、アドベンチャートラベルを新たな旅の形として日本に広げていくためのシンポジウムを予定している。

最明 ツーリズムEXPOは、コロナが5類になって初めての大規模な展示会と事業者間交流の事業になるのできっちりと成果を出していきたい。先ほど髙橋会長が話されたように、第一には動員目標の15万人を達成していくこと。それから、このツーリズムEXPOを通じてしっかりと新しいビジネスを産んでいくことにつなげたい。

新しい旅の形として日観振では、特に「酒蔵ツーリズム」というコンテンツを打ち出していく。また、これまで観光のステークホルダーになっていなかった方々にも今回のツーリズムEXPOに参加してもらうので、それによって新しい何かが生まれるのではないかと期待をしている。

先ほど申し上げた通り、今の観光業界には人手不足という問題がある。観光産業そのもののイメージが今、非常に傷付いている。もう一度そこで仕事をしたい、あこがれる産業だ、ということを示す意味で、今回、学生の入場料を無料にしたり、観光系の学部がある大学に数多く出展してもらったりした。学の分野としっかり連携を図りながら、後進にあたる若い人材の発掘や育成に努めていきたい。

もう一つは、「持続可能な観光」をどう表現していくのか。特に日本は、欧米に比べてその基準作りがまだできていない。観光業界でも国際基準「GSTC」の認証をはじめ、国内でしっかり足固めをした上で観光地の評価を得られる基準づくりを進めていく必要があり、今回のツーリズムEXPOでもそのための何かヒントが出せればいいと思っている。これについては日観振でも今後いろいろ考えていかなければいけないので、われわれもツーリズムEXPOをその大切なきっかけとして位置付けていきたい。

蒲生 ツーリズムEXPOは、私が観光庁にいたときの20年の秋に沖縄で開かれ、私も最初は参加する方向で調整していたが、当時、「Go Toトラベル」が事業として大きな位置を占める中、現地に行けなかったという残念な気持ちがあった。今回、大阪での開催に参加できることは、観光産業に関係する人間として再度の機会をいただいたという意味で非常にありがたく思っている。新しいスタートラインとしていろいろな意味で大きな足跡を残せるイベントになるのではないかと期待している。

そのイベントに併せてJNTOでは、久しぶりに完全リアルでVJTMを開催する。今回は今まで行ってきたものを一つのベースにしつつも、例えば、持続可能性のある観光や、地方への誘客、さらには観光立国推進基本計画の中でコロナ後の新しい旅の方向性としてのキーワードとして掲げられたものなども意識しながら新しい観点で開催したい。おかげさまでVJTMは国内最大級の訪日インバウンド商談会として非常に期待されており、海外のお客さまも含めて参加の希望を多数いただいているので、今話したような方向性なども意識しながら、商談にもしっかり結びつくような形に仕上げたい。

具体的には大阪開催ということなので、「大阪・関西万博×日本全国での観光」を提案するほか、訪日インバウンドのお客さまをしっかりお迎えするための提案や商談の機会としていきたい。ファムトリップでも11のコースで西日本を中心に観光資源を見てもらう内容にし、さらなるインバウンドにつながるようにしていきたい。

また、今回のツーリズムEXPOについても、大阪・関西万博の具体的なイメージを発信していく場となるようにわれわれも協力したい。

国内ほぼコロナ前の状況に　最明氏
アウトバウンド回復が課題　髙橋氏
水際対策緩和後は訪日堅調　蒲生氏
新しい時代の商品など発信　髙橋氏
動員目標15万人の達成を　最明氏
商談に結びつくVJTMに　蒲生氏

鼎談の様子

14面に続く

ツーリズムEXPOジャパン2023大阪・関西
10.26(木)–29(日)　インテックス大阪　ツーリズムEXPO　検索
10月26日(木)・27日(金)は、業界関係者のみの展示商談会となり、一般の方は入場できません。
10月28日(土)・29日(日)一般日入場料(税込)　当日入場券：1,300円 / 前売入場券：800円
お問い合わせ　ツーリズムEXPOジャパン推進室　TEL:03-5510-2004　event@t-expo.jp
●中学生・高校生・専門学校生・大学生は有効な学生証を提示いただいた場合は、無料で入場いただけます。
●小学生以下のお子様のみでの入場はできません。保護者が同伴または引率する場合に限り、無料で入場いただけます。
前売入場券発売中! チケットは公式サイト・コンビニにて
【主催】公益社団法人日本観光振興協会 / 一般社団法人日本旅行業協会 / 日本政府観光局　【特別協力】一般社団法人全国旅行業協会　【後援】国土交通省 / 国土交通省観光庁 / 総務省 / 外務省 / スポーツ庁 / 文化庁 / 厚生労働省 / 農林水産省 / 経済産業省 / 環境省 / 公益財団法人大阪観光局 / 独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ） / 一般社団法人日本経済団体連合会 / 公益社団法人関西経済連合会 / 一般社団法人関西経済同友会 / 一般財団法人関西観光本部 / 日本商工会議所 / 東京商工会議所 / 大阪商工会議所
世界にひとつ。あなたにひとつ。
Incredible India
Shaping a New Journey KANSAI AIRPORTS
Saudi アラビア半島へいらっしゃい
阪急阪神ホールディングス株式会社
HAWAII TOURISM JAPAN
ユニバーサル・スタジオ・ジャパン
東京海上日動火災保険株式会社
株式会社オリエンタルランド